

2日間限定で開館時間を延長

山本有三記念館・吉村昭書斎 夜間開館のお知らせ

所 同館 ☎0422-42-6233、同書斎 ☎0422-26-7500

都内の美術館・博物館が連携し、一斉に夜間開館する「ARTE TOKYO×NIGHT MUSEUM」に同館・書斎が参加し、下記の2日間、開館時間を延長します。当日は、学芸員による夜の展示解説もお楽しみいただけます。

開館時間 11月6日・20日の金曜日

①山本有三記念館＝午前9時30分～午後8時

②吉村昭書斎＝午前10時～午後8時

展示解説 いずれも午後6時30分から30分程度(申し込み不要)

◆開催中の企画展

①三鷹市山本有三記念館 開館30周年 建物の記録と記憶
—三鷹市山本有三記念館、100年の時を経て—

②没後20年・太宰治賞受賞60年
三鷹の作家・吉村昭と田野畑村



山本有三記念館



吉村昭書斎



第11回

山本有三記念館 スケッチコンテスト 作品募集



同館 ☎0422-42-6233

受賞作品は、コンテスト来場者の投票と審査員の推薦に基づき決定し、令和9年2月2日(火)～3月7日(日)に同館で展示します。応募方法など、詳しくは同館 **HP** でご確認ください。

募集作品

同館または有三記念公園を描いたスケッチ作品

募集期間

12月13日(日)(必着)
まで



第10回山本有三記念館賞
本田直子「老館の灯」

考古学体験講座

縄文人が食べていたもの —土器に埋め込まれた秘密—

同生涯学習課 ☎0422-29-9867

縄文土器に残された小さなくぼみ「圧痕(あっこん)」には、縄文人の食生活を知る手掛かりが隠されています。市内の遺跡から出土した土器の圧痕を型に取り、電子顕微鏡で観察する「レプリカ法」を体験し、縄文人が食べていたものの秘密に迫ります。

※今回の講座では調理・試食は行いません。

日 11月21日(土)午後1時30分～3時30分 人 小学5年生以上の方20人(小学生は保護者同伴) 所 教育センター 講 中央大学文学部教授の小林謙一さん 申 11月2日(月)午前9時から申し込みフォーム(QRコード)へ(先着制)

◆縄文食復元プロジェクト

市では令和5年度から「縄文食復元プロジェクト」として、縄文時代の食材や調理法を考え、植物を栽培し、縄文食を復元・試食する企画を行っています。



アズキの圧痕
(三鷹市丸山A遺跡出土土器)



大沢の里古民家

紫草の栽培 紫根染め編



同生涯学習課 ☎0422-29-9862

1月の種まき、5月の移植、11月の掘り起こしを経て乾燥させた紫草の根で、かつて「江戸紫」と呼ばれ、流行した紫根染めを行います。

日 11月28日(土)午後1時30分～3時30分 人 12人

所 同施設 講 みたか紫草復活プロジェクト会長の西村学さん 料 200円(入館料。中学生以下は無料)

物 汚れてもよい服装 申 11月8日(日)までに申し込みフォーム(QRコード)、または同課 ☎0422-29-9862へ(電話での受付は6日(金)午後5時まで。申込多数の場合は抽選)



アール・ブリュットみたか2026



同同事業事務局 ☎0422-47-9100

障がいや専門的な美術教育の有無にかかわらず、ありのままの表現から生まれたアート作品の中から、入選作品を展示します。

日 市、(公財)三鷹市スポーツと文化財団 日 11月18日(火)～23日(月・祝) 所 三鷹市美術ギャラリー、桜井浜江記念市民ギャラリー、星と風のカフェ(下連雀3-8-13) 申 期間中会場へ ※開催時間は会場ごとに異なります。



「スキー場物語」加藤恵子
(みたかコレクション2025選出作品)

●スタンプラリー

上記期間中に3会場を巡った方にすてきな参加賞をご用意しています(先着300人)。

●作家さんが“ほんとう”を語る60分

昨年度の入選作品から代表作品(みたかコレクション)に選ばれた作家が、作品に込めた思いや制作秘話を語るトークイベントです。

日 11月18日正午～午後1時 所 三鷹市美術ギャラリー 申 当日会場へ

●みたかコレクション2025展示

日 11月18日～23日午前9時～午後6時(23日は4時まで)
所 みたか観光BASE

関連イベント

市史編さん室通信 Vol.4

武蔵野を彩る 紫草

同市史編さん室 ☎0422-24-6360

紫草は、古くから人々の暮らしとともにあった、武蔵野を代表する植物です。その名は武蔵野の枕詞(まくらことば)として『万葉集』にも登場し、江戸時代には、江戸を代表する染料「江戸紫」の原料として使われていました。

染料のもととなる紫根は、11月ごろに掘り出し、約1カ月乾燥させてから利用します。江戸紫の染色技法については諸説ありますが、神田川水系の水を使うことで、青みを帯びた鮮やかな紫色に染められたといういわれがあります。

武蔵野の自然と深く結び付いてきた紫草ですが、現在では生育数が大幅に減少し、絶滅が危惧されています。そこで三鷹市は、長年この活動に取り組んできた「みたか紫草復活プロジェクト」の皆さんとの協働により、大沢の里古民家で紫草を栽培しています。



今も紫草の復活に向けた取り組みが続けられているんだね！

